

## 国策・満蒙開拓を拒んだ村長 佐々木忠綱が見た「満州」

1987年にインタビューを受けた佐々木忠綱氏の肉声テープが記念館に寄贈されました。佐々木村長についてはあの当時、日本で一番多くの開拓団を送り出したこの地域にも反対の立場をとった村長がいたということで知られてはいますが、話しとしての伝聞が多く、資料はあまりなかったのが、今回のテープは貴重なものだと思います。

テープは約2時間ありますが、その中で満州視察に行った時の話の部分を書き起こしました。

Q. 自由大学で勉強なさった先を見る目、あるいはものの見方ってものが、佐々木さんが村長やっておられた時にちょうど満州の開拓をさかんに進めておったんだか、今はその時期ではないしやるべきではないってことをおっしゃったということで、大下条村では満州の開拓の分村をしなかったという、そのあたりのお話をおうかがいしたいのですが。

A. 私は昭和13年に、下伊那が、これからは満洲開拓の時代になったで、村長で組織して満州、開拓地を視察するということになりまして、それで私もそれに参加して、昭和13年のたしか5月頃、一か月くらいかかって満州の開拓地を全部視察しました。

その時に第一次弥栄というところを見、それから第二次千振郷という、これはまた非常に進歩的な資本主義的な経営をしておる、当時から見ればとても進歩的ということでありまして。それから第五次だとかいろいろな開拓地をずうっと見て、満州をずうっと一巡して、そして帰ったのでありますが、私が行ってみてちょっと疑問を感じたのが、第二次千振郷なんちゅうのはもう経営がほとんど資本主義的な営利主義な経営でありまして、それから耕地はもう全部立派な既墾地、これどうしても強制収用した土地だと思いました。それで第一次の弥栄というところはやや開墾した痕跡もありました。それからもう一つ、松島自由移民団というのはこの下伊那から松島という人が中心になって自由移民団というのがありますが、そこへ行ってみましたところ水田は全部朝鮮人が作って、広い水田地帯だったので、これも結局買収という形は形だったんでしょうが強制収用でしたなあ、もう見渡す限り。そして、これはどうも開拓ではなくて強制収用ということは、これはちょっと疑問点があるという、疑問を私は持って帰りました。

それから、ハルピンの市街でありましたが車に乗って、我々がいくつにも分かれて車に乗って行きましたところ、幾人ばか乗ったか、10人か15人ばか乗るとる車で行きまして、運転手は日本人でした。そうしたら、向こうから車がきて「止まれ」の号令をかけて止めまして、それで降りてって運転手呼び出して殴って、・・・・さかんに怒って、あれ朝鮮人だか満人の運転手だったか、そのこっちに対して態度が悪いちゅうて。まず、日本人はおそろしく横暴だということにも疑問を持って帰ってきた。